

様式 1

令和 7 年度学校評価報告書
渋谷区立上原中学校

令和 7 年度 学校評価報告書

令和 8 年 2 月 2 0 日
渋谷区立上原中学校

(1) 子ども主体の学校づくりの推進

【ア】 自己評価

重点目標		①デジタル技術を活用した授業の推進 ②総合的な学習の時間（探究「シブヤ未来科」）の充実 ③誰一人取り残さない授業の推進			
評価指標		取組内容（具体的に）	評価	成果	評価
①	タブレットの月ごとの一日平均利用時間を 60 分以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科・全授業において、タブレットを活用した学びを設定する。 ・タブレットの月ごとの一日平均利用時間を教員に周知する。 	B	今年度の最高時間は 7 月の 54 分であり、目標を達成することができなかった。デジタル教科書やアプリの活用を進め、60 分を超えたい。	C
②	全生徒にアンケートを実施し、「総合的な学習の時間では自分で課題を立て、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の問いについて、肯定的な回答を 90% 以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級、学年、学校での探究発表会を開催し、モデルとなる友達の探究学習を知ることで、意欲的に学びを継続できるようにする。 ・一人一人が、自信をもって成果をプレゼンテーションできるようにする。 	B	1 月の七つの力アンケートでの肯定的な答えは 89.4% であった。全国学力学習状況調査での肯定的な回答は 91.7% で目標は達成していた。生徒の意欲を高め、100% を目指したい。	B
③	全国学力学習状況調査で「国語」と「数学」の「授業の内容はよくわかりますか」の問いについて、肯定的な回答を 100% 以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・英語と数学では習熟度別少人数指導を行い、個に応じた学習を進める。 ・補修教室「まなび〜」を定期的で開催し、学習の遅れを補う。 	B	国語は 82.4%、数学は 75.9% であった。東京都より数学は 3.9 ポイント、国語は 3 ポイント上回ってはいるが、100% を目指したい。	B

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

【イ】 学校関係者評価

取組に対する評価	成果に対する評価	学校関係者委員会の見解について
B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの各月の平均時間を教えてほしい。 ・探究学習については専門家を招聘し、推進してほしい。 ・娘が「20歳を祝う会」の実行委員をしたが、その際、「渋谷フォント」を使うように言われた。渋谷区でもそのようなしぼりがあるのかと残念に思った。生徒主体はとてよいが、生徒主体を押し付けると、生徒主体ではなくなってしまうので注意してほしい。

学校の自己評価は、A=適正である B=おおむね適正である C=適正ではない

(2) 新たな学びの実現

【ア】 自己評価

重点目標		① 日々の授業改善 ② ICT の日常化 ③ 探究「シブヤ未来科」の推進			
評価指標		取組内容（具体的に）	評価	成果	評価
①	全国学力・学習状況調査の「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の問いについて、肯定的な回答が平均を上回る。	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導を充実し、基礎基本の徹底を図る。 ・ICT 機器や友達との協働学習を取り入れ、工夫した授業を行う。 	B	肯定的な回答は 87.1% で、東京都平均より 7.4 ポイント、全国平均より 7.8 ポイント上回った。今後もすべての教科で意欲関心の高まる授業の工夫を行う。	B
②	全国学力・学習状況調査の「授業でコンピュータを使用しましたか」の問いについての回答で「ほぼ毎日」を 100% にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書、アプリケーション等の活用を推進するとともに教員同士で教え合う環境をつくる。 	B	ICT 機器を「ほぼ毎日」使用は 85.2% で、東京都平均より 29.6 ポイント、全国平均より 32 ポイント上回った。今後も ICT 使用を日常化するよう推進を図る。	B
③	保護者・地域アンケートで「シブヤ未来科」を推進している」の問いについて、肯定的な回答を 80% 以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年でシブヤ未来科について学習活動の充実を図る。 ・探究学習発表会を保護者や地域へ積極的に公開する。 ・探究フェスタなどで他校の実践を研究する。 	B	「推進している」と肯定的な回答は 67% であった。一方「分からない」という回答が 26% (昨年度 35%) であった。周知は進んでいるが、今後もシブヤ未来科の発表会などを充実させていきたい。	B

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

【イ】 学校関係者評価

取組に対する評価	成果に対する評価	学校関係者委員会の見解について
B	B	・フィンランドなど学力調査の結果もよく、デジタル先進国と言われていた国々も書くことの大切さを再認識している。デジタルも大切であるが、その時間を増やすことを目的とせずに、書かせることも大切であることを認識して、バランスよく学習させてほしい。 ・シブヤ未来科については、さらに進めてほしい。また、学校内でシブヤ未来科浸透に向けた説明や発表会がさらにもよい。

学校の自己評価は、A=適正である B=おおむね適正である C=適正ではない

(3) 安心・安全に挑戦できる環境

【ア】 自己評価

重点目標		① 人権教育の充実 ② いじめ防止の徹底 ③ 特別支援教育の推進			
評価指標		取組内容（具体的に）	評価	成果	評価
①	全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがある」の問いについて肯定的な回答が全国平均を上回る。	・あらゆる教育活動で偏見や差別を許さない人権教育を推進する。 ・校内研修で教員の人権感覚を磨く。	B	肯定的な回答は 87.9%で全国平均 86.2%を上回った。昨年度は 84.1%であった。 今後も一人一人の生徒を大切にした教育の充実を図る。	A
②	いじめ調査を年 5 回以上実施し、重大事態を含め、継続案件をなくす。	いじめ防止学校基本方針を教員・保護者・生徒に周知し、取組の徹底を図る。 いじめ調査を年 5 回以上実施し、早期発見・早期対応に努める。	A	いじめ調査を年 4 回、いじめを含む学校生活アンケートを年 6 回実施した。重大事態を含め、継続した案件はなかった。	A
③	生徒一人一人への支援を充実させ、発達障害が起因する不登校生徒を半減させる。	特別支援校内委員会を月 1 回開催し、個別の支援方法について、専門家とともに支援方法を協議する。	A	校内委員会を月 1 回以上実施した。発達障害に起因する不登校の生徒への支援も検討し支援した結果、少しずつ登校が増えた。	B

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

【イ】 学校関係者評価

取組に対する評価	成果に対する評価	学校関係者委員会の見解について
A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・電車やバスで優先席を高齢者に譲らない若者が多い。学校で教えているとは思いますが、実行する力を付けることが大切である。 ・特別支援教育についても、日常生活の中で生かすことが大切である。 ・調査をするだけでなく、何が原因か、子ども達の考えや思いがどこにあり、不満を抱え問題が起きるのかを知るべきである。 ・日頃からの生徒と教師との関係が大切である。一人一人の生徒へ細かい気遣いをすることで、いじめや問題行動の本質が見え、解決につながる。 ・いじめも含め、トイレの問題や盗難案件など、事案の透明化が必要である。内容の実態の共有が少ない。PTA 執行部だけでも共有したい。

学校の自己評価は、A=適正である B=おおむね適正である C=適正ではない

(4) 校務DX (働き方改革)

【ア】 自己評価

重点目標		①デジタルコンテンツの活用 ②ペーパーレス化の推進 ③超過勤務時間の削減			
評価指標		取組内容 (具体的に)	評価	成果	評価
①	会議を精選するとともに、会議時間を短縮する。	・ Teams のチャット機能を日常的に利用する。	A	会議や打ち合わせは延長せずに行えた。会議については今後さらに精選していきたい。	B
②	会議等の資料はすべてデータでの配付とし、ペーパーの資料をなくす。	・ Teams のチームのフォルダーを利用し、共有する。	A	会議の資料はすべてフォルダーに収めることで、ペーパーレス化が進むとともにいつでも見ることができるようになった。今後は授業でのペーパーレス化を推進したい。	A
③	超過勤務時間を月平均 40 時間以下にする。	・ 定時退勤日を週に 1 日設ける。 ・ 長期休業期間を定時退勤期間とする。	B	部活動の外部委託もあり超過勤務時間は減った。12 月の平均は 50.4 時間であった。目標には達していないが、4 月より 8.7 時間短くなった。	B

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

【イ】 学校関係者評価

取組に対する評価	成果に対する評価	学校関係者委員会の見解について
A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判もオンラインで行うようになった。Teams などを使いこなせないと様々なことに支障をきたす時代である。日常的に使い、スキルアップしていくことが大切である。 ・教員の負担が減り、勤務時間が短くなっていることはよい傾向である。 ・先生方の実態が分からないため、進捗状況が分からない。

学校の自己評価は、A=適正である B=おおむね適正である C=適正ではない

(5) 家庭・地域との協働

【ア】 自己評価

重点目標		①学校運営協議会の活性化 ②地域活動との連携 ③広報活動の充実			
評価指標		取組内容 (具体的に)	評価	成果	評価
①	学校運営協議会の活性化のために、学校運営協議会に生徒を参加させる。	学校運営協議会を年 5 回実施し、そのうち 2 回以上生徒を参加させる。	A	学校運営協議会を年 5 回実施した。そのうち 2 回、生徒会役員が参加し、中規模改修について生徒の意見を伝えた。生徒が参加することで協議が充実した。	A
②	地域行事のボランティアに、のべ 100 人以上の生徒を参加させる。	定例の子ども食堂をはじめ、地域の運動会、音楽祭、ふれあい祭りの開催の周知を徹底し、参加を呼びかける。	B	どの行事も一桁の参加人数で目標を達成することはできなかった。道徳や特別活動で連携の意義を学ばせ、参加者を増やしたい。	C
③	保護者・地域アンケートの「学校は、教育の方針を分かりやすく伝えていきますか」の問いについて、肯定的な回答を 80%以上にする。	学校だよりを毎週配付する。 学校ホームページを毎日更新する。	A	ホームページは毎日更新した。肯定的な回答は 79%で昨年より 6 ポイント上がり、ほぼ目標を達成した。さらに「十分達成されている」については、14%から 27%にほぼ倍増した。	A

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

【イ】 学校関係者評価

取組に対する評価	成果に対する評価	学校関係者委員会の見解について
A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動についてはボードで知らせるだけでなく、継続的に呼びかける必要がある。 ・ 地域活動に対する学校からの説明がより必要である。

学校の自己評価は、A=適正である B=おおむね適正である C=適正ではない

(6) 特色ある教育活動

【ア】 自己評価

重点目標		①教科教室型システム（施設・設備）の活用 ②生徒主体の学校づくりの推進 ③キャリア教育の推進将来の夢や目標を持っていますか			
評価指標		取組内容（具体的に）	評価	成果	評価
①	保護者・地域アンケートの「学校の教育活動は学校の特色が表れたものになっていますか」の問いについて、肯定的な回答を 80% 以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 教科教室型システムやラーニングコモンズなどの施設、設備の活用をホームページで周知する。 タブレットを活用した探究学習を進め、学習成果を発表する。 	A	肯定的な回答は、92%であった。昨年度の 70%から大きく増えた。教育活動を日々周知することや学習発表会で成果を表すことで特色を伝えられたと考える。	A
②	学校のルールの変更や施設・設備の改修に生徒の意見を生かす。	令和 9 年度からの中規模改修に生徒の意見を取り入れる。 生徒の意見を取り入れ、学校のルールを変更する。	A	中規模改修については生徒会役員が生徒の意見をまとめ、区長と教育長に直接伝え、実現に向けて進んだ。	A
③	全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の問いについて、肯定的な回答が 100%になる。	各学年のキャリア教育を充実させる。 1 年生—職場体験 3 年生—進路学習	A	肯定的な回答は 78.5%であった。全校の 67.5%、都の 66.3%に比べると高いが、より将来の目標をもてるような教育を進めていきたい。	A

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

【イ】 学校関係者評価

取組に対する評価	成果に対する評価	学校関係者委員会の見解について
A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員が取り組んでいることを全生徒が自分事にとらえられるように巻き込んでいくことが必要である。 ・生徒会だけでなく幅広い生徒の意見を集め、検討する必要がある。また、生徒と教員とのコミュニケーションも必要である。 ・アンケートの回収率を上げる努力をしてほしい。このアンケートをどうとらえればよいのかをより分かりやすく説明してほしい。誰へのアンケートなのか、保護者なのか生徒なのか分からない設問もある。

学校の自己評価は、A=適正である B=おおむね適正である C=適正ではない